

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：2019年11月18日 報告者：岩崎 卓識、長嶋 和子

行事種別	基礎講座	行事番号	190010629	
開催日	2019年11月3日（日）			
時間	開始	9時30分	終了	16時00分
場所	藤田医科大学3号館および10号館			
テーマ	尿沈渣・髄液検査について			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	名古屋大学医学部附属病院 岩崎 卓識			
講師	<p>I. 講義</p> <p>1) 尿沈渣の異型細胞の見方～異型細胞を見逃さないために大切なこと～ JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 蜂須賀 大輔</p> <p>2) 髄液検査について～髄液検査の基礎から応用～ 医療法人深谷会 富士病院 包原 久志</p> <p>II. 尿沈渣・髄液検査鏡検実習</p>			
内容	<p>午前中9:30～11:40において、尿沈渣と髄液検査の講義が行われた。</p> <p>講義1)として、蜂須賀技師より、尿中異型細胞を主体とした尿沈渣の講義が行われ、前半は、尿沈渣中に現れる上皮細胞成分の鑑別方法について解説がされた。後半は、異型細胞の考え方から、出現しやすい沈渣上の背景、異型細胞の形態的特徴および注目すべき鑑別点について、講義がされた。</p> <p>講義2)として、包原技師より、髄液検査の基礎から応用についての講義が行われた。前半は、髄液の機能、髄液検査の採取および取り扱い方法、検査の臨床的意義と検体の採取緊急性・迅速性について、基礎的な知識を幅広く講義が行われ、後半は、臨床例から、実際の臨床データと染色標本とを用い、症例を提示した講義がされた。</p> <p>いずれの講義も受講者の知識と理解を深めることができる内容であった。</p> <p>尿沈渣・髄液検査鏡検実習は1班9～10名の6班に分け、12:30～16:00の計3.5時間で行った（休憩、片付けを含む）。第一部は1時間40分をかけ血球、上皮細胞、細菌、円柱、結晶、その他希少成分を鏡検してもらった。計画時点では顕微鏡に標本をセットしておいて受講生が移動する従来通りの回遊式を考えていたが、受講生の経験年数に差がある事から、班ごとに標本セットを渡し自由鏡検とした。実行委員が1班に3名程度つき、質問を適宜受け付けた。実習方法変更による混乱はなかったが、実行委員から声掛けをするなど大人しいタイプの受講生も質問しやすい雰囲気を作る事が大切だと感じた。第二部は1症例15分、計1時間30分をかけ尿沈渣3症例（尿路感染症、異型細</p>			

	<p>胞、腎炎)、髄液 2 症例 (細胞数算定、クリプトコッカス)、尿定性検査確認試験 (スルホサリチル酸法、ロジン法) を行った。尿沈渣の 3 症例では、結果値の報告だけでなく沈渣からどのような病態にあるのかを読み解くコツや、鏡検時に気を付けるポイントなどを指導した。髄液の 2 症例では実践に基づいた計算盤での算定を行い、単核球と誤認する危険性のあるクリプトコッカス感染の症例を目視確認してもらった。尿定性検査確認試験ではタンパク偽陽性及びビリルビン偽陽性反応の用手法確認を各自実際に行ってもらった。実際の業務に直結する症例検討であり受講生も熱心に実習していたが、講師の声が聞きづらいとの意見が上がった。6 名の講師が一斉に各班に説明を行うためマイクの使用には無理があり肉声での説明となったことが要因であるが、受講生を近寄らせて説明するなどの対策が途中からでも行えると良かった。最後にアンケートを実施しているので研究班内でその結果を検討し、来年度の基礎講座の開催に備えたいと思う。</p>
参加者	<p>総数：73 名 (会員 68 名、県外会員 5 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)</p>
共催、後援など	